

## 透析患者さんの治療効果の判定にFMDを活用しています

佐野内科クリニック（浜松市） 院長 佐野晃司 先生



### 略歴

平成04年 浜松医科大学卒業  
 浜松医科大学第一内科研修医  
 平成05年 富士宮市立病院 内科  
 平成07年 浜松医科大学大学院入学  
 平成11年 浜松医科大学第一内科医員  
 磐田市立総合病院 内科医長  
 平成16年 同内科科長

### 資格

医学博士  
 日本内科学会認定 総合内科専門医  
 日本腎臓学会認定 腎臓専門医・指導医  
 日本透析医学会認定 透析専門医・指導医  
 日本糖尿病学会会員  
 国際腎臓学会会員

現在、日本国内の糖尿病患者は300万人を超え、糖尿病を強く疑われる糖尿病有病者での推計では950万人と過去最高となっています。また透析予備軍である慢性腎臓病(CKD)患者は1330万人に上ります。当院では、院内で迅速な検査を行い、総合的診療によりこれらの疾患を診断・予防・治療して参ります。

### 鋭敏な治療効果の評価に

当院では、糖尿病、高血圧、高脂血症などの生活習慣病予防や、腎炎、腎不全治療にも力を入れています。また併設の腎センターにて、腎不全に陥った患者さんに対して透析治療を行い、腎臓内科医という視点からよりきめ細かな透析管理を行なっています。現在、透析患者における死因の心血管疾患、脳血管疾患が占める割合は依然高く、透析患者の治療におけるこれら動脈硬化性血管疾患の予防が重要であると言えます。

当院ではこれまで血圧脈波検査(CAVI)を活用し透析患者さんの動脈硬化の評価を行ってきました。しかしながらCAVIでは動脈硬化の重症度をみる上では大変有用ですが、透析患者さんの多くでは既に動脈硬化が進展しているため、投薬など治療をおこなっても、その効果は評価しづらいと感じていました。そのような状況の中で、何か他に血管を評価する指標がないかと考えていたところ、血管内皮機能を評価するFMD検査を紹介されました。

血管の内皮機能の変化は可逆的であるため、これまでの動脈硬化検査では捉えづらかった治療の効果を鋭敏に評価できるのではと考え導入を決めました。

### 高齢な患者さんや透析歴の長い患者さんでもFMD値が改善

当院では、FMD検査を導入し約3年が経過しましたが、CAVIと合わせてFMD検査を少なくとも年一回は実施しています。

CAVIでは数値の変化はみられない患者さんでもFMD値は改善する例がみられ、また高齢な患者さんや透析歴の長い患者さんにおいても内皮機能は改善しています。

FMD値を改善することは生命予後の改善につながると言われていています。今後も検査を定期的に実施し、FMDを治療マーカーとして活用していくことで透析患者さんの血管疾患予防に取り組んでいきたいと考えています。

#### ○男性(88歳)

透析歴： 4年  
 FMD値： 2.4% → 3.5% (↑1.1%)  
 CAVI： 10.2 → 10.9

#### ○女性(68歳)

透析歴： 8年  
 FMD値： 2.2% → 3.6% (↑1.4%)  
 CAVI： 11.7 → 11.8

#### ○男性(68歳)

透析歴： 12年  
 FMD値： 2.0% → 4.2% (↑2.2%)  
 CAVI： 9.6 → 9.6

「健康へ 血管を意識し 大切な未来へ」



株式会社 ユネクス  
[www.unex.co.jp](http://www.unex.co.jp)

〒460-0008  
 名古屋市中区栄2-6-1 RT白川ビル401  
 TEL: 052-229-0821 FAX: 052-229-0823